

大豆近況 VOL.163

団体会員
一般会員 各位
賛助会員
協賛企業

関係部署にご回覧ください。

令和4年7月4日
一般財団法人 全国豆腐連合会

「大豆近況」をお届け致します。是非、ご活用下さい。

○北米産大豆

米国農務省が6月10日に発表した、2022/2023年度の米国大豆需給報告によりますと、生産量は1億2,628万トンと前月から据え置かれました。しかし、2021/2022年度の輸出の増加を受け、総需要量が増加、2021/2022年度の期末在庫は558万トン、在庫率4.6%に下方修正されました。従いまして、2022/2023年度の期初在庫は同数に下方修正、期末在庫は760万トン、在庫率6.11%に下方修正されました。また、世界の大豆生産予想は、2022/2023年度で3億9,469万トンと発表されました。これは先月と比べると上方修正されております。また2021/2022年度のアルゼンチン、ブラジルの生産量が上方修正されたことも加え、2022/2023年度の期末在庫は上方修正されました。

一方、2021年産大豆の入港状況ですが、依然として大幅な遅れや船積みキャンセルが横行しており、一向に改善の兆しが見られず混乱を極めている状況で、今後の更なる在庫ひっ迫が懸念されております。また、依然として海上運賃は高値水準を維持、もしくは上昇しており、コストアップの要因となっております。

6月のシカゴ相場は、\$16.8 ブッシェル(2022年7月限月)付近から始まりました。毎週、米国農務省より発表される大豆生育進捗状況は相場変動要因の1つとなっております。直近、6月27日に発表された生育進捗状況では、作柄(Crop Condition)の「良」と「最良」の合計ポイントが65ポイントとなり、前週の68ポイントから3ポイントの下方修正となりました。米国の大豆産地の一部で高温乾燥の天候が続いていることが原因として挙げられます。作柄の悪化は、単収の低下に繋がるため、この結果はシカゴ相場にとっては強材料となります。なお、昨年同時期は60ポイントであり、昨年よりも作柄は良い状況にあります。

7月1日現在、シカゴ相場は\$16.6/ブッシェル(2022年7月限月)となっております。米国農務省が6月30日に発表した米国大豆の四半期在庫によりますと、971百万ブッシェルとなっております。これは市場で予想されていた965百万ブッシェルを上回ることであり、シカゴ相場にとっては弱材料となります。なお、昨年2021年6月末時点での数量が769百万ブッシェルですの

で、昨年よりも在庫が多いこととなります。但し、同時に発表された米国大豆の作付意向面積報告によりますと、2022年産は88.3百万エーカーと発表され、これは市場の予想平均である90.5百万エーカー、また6月10日発表の米国大豆需給報告にて、予想作付面積91.0百万エーカーを下回り、シカゴ相場にとっては強材料となる結果となりました。以上の結果から、未だ十分な大豆の在庫はなく、相場は高騰し易い状況にあり、今後も注視が必要です。

6月の円相場は、1ドル128円半ば付近から始まりました。米5月のシカゴ購買部協会景気指数、米5月コンファレンスボード消費者信頼感指数、米5月ISM(全米供給管理協会)製造業景況指数の好調な結果、FRB(連邦準備制度理事会)理事の利上げを示唆する発言から米長期金利は急上昇致しました。また日本銀行・黒田総裁による「金融引き締めを行う状況には全くない」という発言も相まって、ドル買い、円売りが一気に進み1ドル134円を突破しました。その後、米FOMC(連邦公開市場委員会)会合にて金利は0.5ポイントから0.75ポイントの追加利上げが決定され、更なるドル買い、円売りの動きが加速し易い状況となっております。

7月1日現在、1ドル=135円台まで円安が進行しており、非常に大幅なコストアップとなっております。

○国産大豆

令和3年産国産大豆の第7回入札取引が6月15日に実施され、全国で約5,253トンが上場され、落札率は83.7%でした。先月に引き続き3月迄、殆どが不落だった北海道産の納豆銘柄は、98.0%と上場したロットの大半が落札された結果となりました。(前月80.9%)平均落札価格は、普通大豆¥9,664/60kg(前月比▲¥257/60kg)、特定加工用¥8,875/60kg(前月比▲¥210/60kg)で全体の落札平均価格は¥9,511/60kg(前月比▲¥244/60kg)の結果となりました。北海道産とよまさり銘柄は若干、前月よりも下がっておりますが、引き続きしっかりした価格を維持している状況です。東海・九州の銘柄は前月まで北海道産とよまさり銘柄同様に高い価格帯を維持してきましたが、6月の入札結果では前月と比較し、¥1,000/60kg以上、落札価格が下がった産地、銘柄が多数散見されました。東北、北陸、関東では山形エンレイ等、一部値上がりしていますが、全般的には値下がり傾向にあります。次回は7月13日に約3,000トンの上場が予定されております。令和3年産国産大豆入札会は7月にて終了される予定となっております。前月よりも平均落札価格は下がっておりますが、特定の地域・銘柄では高値を維持しており、落札率も高い水準を維持しており、国産大豆の需要は堅調となっている為、引き続き注視が必要な状況です。

以上